

令和3年度

当初予算の概要

(議会内示会 説明要旨)

令和3年2月25日

本日、令和3年度当初予算内示会にあたり、その概要をご説明いたしますとともに、議会の皆様からご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

まず、国内外において、新型コロナウイルス感染症が依然として猛威をふるう中、国では「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」を策定し、感染症の拡大防止策、ポストコロナに向けた経済構造の転換、防災・減災、国土強靱化の推進などに取り組んでいくこととしております。

また、コロナ禍で明らかとなった行政サービス等における様々な課題に対処するべく、行政のデジタル化の推進や新しい社会を支える人材への投資を強化するとともに、地方回帰の流れを創出するための施策が展開されることとなっております。

そのような状況の下、町予算の編成にあたりましては、町民の皆さんが将来の金山町に希望を持って、より良い未来が実現されるように、「財政健全化」と「コロナ禍で求められる行政サービスの提供」に主眼を置き、予算を編成いたしました。

今年度から、全課をあげた事業見直し等による財政健全化の取組みを加速させ、令和3年度当初予算の編成においても、全ての事業について「人口と財政の規模に合った事業なのか」といった観点から突き詰めて検討し、「縦割り方式」から、対話と提案による「積極的議論」による編成作業へ改革し、効果を重視した改善に着手して参りました。

しかしながら、高止まりする公債費や社会保障費の増加、恒常的な繰出金の支出などを主因に、全体的な事業費が町の歳入規模を上回っていることから、経常的な経費が一般財源に対して過剰な状態となっております。

現在の財源不足が続いた場合には、基金残高が減少し、人口規模の縮小や地方交付税の見通しからも、今後10年間程は、極めて厳しい財政運営が強いられることが予測されます。

後年度の財政運営を見据えた結果、定住促進住宅及び街なか公営住宅の整備と中央公民館建設事業について、白紙とすることを決定し、現在の町の規模に適した施設となるよう、事業計画をゼロから見直すこととしております。

令和3年度は、今後の町政を左右する「決断の年」と捉えております。廃校の利活用や中央公民館、グリーンバレー神室一带の在り方など、財政状況に大きく影響する事業について、安定した財政運営に繋がる方針を示す必要があると考えております。

厳しい財政見通しではございますが、行政は未来の町民の暮らしを保障する必要があり、町民の皆さんにとって「住んで良し」の町にならなければなりません。

今こそ原点に立ち返り、「本当に町民のためになる事業なのか」を真に見つめ直し、判断することが求められております。「なんとかなる」と楽観的では状況は変わらず、「何をしても無駄」と悲観的になっても未来は開けません。

「新陳代謝のR3～令和を生き抜く持続可能なまちづくりを～」。これは、令和3年度の予算編成にあたり掲げたスローガンです。

令和3年度は、事業の新陳代謝を図ることで、揺るぎない財政基盤を早期に構築し、令和の時代に合った持続可能な行財政運営を確立する節目となるよう、中長期的なビジョンと将来の町の姿をお示しする年度にいたしたいと考えております。

事業の見直しを行いながらも、福祉サービスや防災対策、除排雪経費など、安全、安心のために不可欠な行政サービスは、優先的に年間予算を確保し、令和3年度一般会計当初予算案は、前年度より金額で4千7百万円、率にいたしまして1.2%減の37億9千6百万円となりました。

歳入の見込みでございますが、財政運営基金の基金残高を早急に確保する必要があると判断し、原則として基金からの繰り入れを行わないほか、後年度の財政負担を軽減するため、町債発行を抑制しております。

その分、一般財源となります地方交付税を、地方財政対策の見込みから、交付額を試算し、決定額ベースで予算計上しているため、前年度より2億2千7百57万円の増額としております。

また、平成31年度から当該年度の事業に充当しているふるさと寄附について、令和3年度は、返礼品やその発送に係る事務経費に充当し、残額はかねや

ま応援基金に積み立て、基金残高を確保することとしています。

後ほど、内示資料あるいは各課が担当する事業の詳細につきましては、各課長からご説明させていただきますので、私からは、特徴的な事項や重点的に取り組む事業を述べさせていただきます。

何といたっても、新型コロナウイルス感染症対策は、町としても当面の優先課題と捉えております。ワクチン接種に関しましては、2月10日に設置した新型コロナウイルスワクチン接種推進対策室を中心に、プロジェクトチームと連携して、国の動向を注視しながら、確実な接種体制のもとで、町民の円滑なワクチン接種を実施して参ります。

また、感染防止の観点から、町主催の研修、視察は原則見送りとしています。予算案に計上している事業については、感染症対策を十分に講じた上で実施する予定ですが、感染状況によっては、町のガイドラインに従い、柔軟かつ的確にその在り方を判断して参ります。

併せて、国で推し進めている行政のデジタル化について、町でも積極的に取り組んで参ります。見送りとした研修についても、かねやま清い心の町創造基金を活用してオンラインに切り替えて実施できるよう、講師への謝金を予算案に計上しております。

また、行政と町民の皆さんとの新たな情報伝達基盤として、4月から町公式ラインの運用を開始する予定としてございます。これにより、今以上に多世代に広く情報を発信することができるものと考えております。

なお、今年度の国の3次補正予算におきまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の3次交付分が1億飛び2百31万円と示されました。令和3年度においては、感染症の発生状況等に応じた柔軟な支援を実施していくため、当交付金の事業は補正予算での対応を考えております。

臨時交付金事業につきましては、公共施設のオンライン化や機能向上、地域内循環を下支えする経済対策など有効な事業を検討して参りますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

町立金山診療所につきましては、令和3年度より無床化となり、新たな体制

でスタートが切られます。スリム化を図ったことで人件費が減少となり、診療所への一般会計繰出金は、1億2千7百8万円と前年度比6千7百53万円の減となっております。

入院施設がなくなることで、町民の皆さんには不安やご不便をおかけすることもあろうかと思いますが、標榜する内科・外科・小児科・疼痛外来の4科目は確保し、外来診療はこれまでと同様に行って参ります。また、訪問診療や訪問看護体制の強化や、他の医療機関との連携を一層推進し、信頼される「かかりつけ医療機関」を目指して参ります。

経営の安定化を目的とした診療所の無床化によって、医療サービスの低下を招くことのないよう万全に準備の上、職員一同「懇切丁寧な対応」を基本として励んで参りますので、議員の皆様におかれましても、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

観光の拠点であるグリーンバレー神室一帯につきましては、今年度に引き続きコンサルティング診断を受け、経営分析や経営改善策の提案を受けることとしております。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ホテルシェーネスハイム金山やホットハウスカムロ、神室スキー場を含めたグリーンバレー神室一帯は大きな打撃を受け、来場者の減少が深刻な課題となっております。

示されるコンサルティング診断の結果を分析し、現実的かつ抜本的な経営改善の実現や収入に見合った事業展開を確立できなければ、現体制での事業の継続は困難と判断せざるを得ないと考えております。

令和3年度は「決断の年」と申し上げました通り、グリーンバレー神室一帯の在り方につきましては、町民の皆さんへの影響や事業の効果、財政運営への影響などを総合的に勘案し、十分に検討しながらも可能な限り速やかに、決断して参ります。

また、築後50年以上が経過する中央公民館につきましては、今年度において、改築計画を白紙とし事業計画を見直すことといたしました。令和3年度に中央公民館機能検討委員会を組織し、既存の公共施設への機能移転を含めた今後の中央公民館機能について、検討することとしております。

現施設は、年間1千万円程の維持管理経費に加え、防火扉や自動ドアなどの主要設備の更新時期が到来しているため、今後、設備更新に係る費用が増嵩する見込みです。また、耐震補強が必要と診断されてから久しく、施設の安全面も大いに懸念されております。早期に検討委員を選出し、速やかに今後の中央公民館の在り方について判断する必要があると考えております。

その他にも、今後の公共施設の在り方については、全庁をあげて検討するべき重要事項と捉え、「施設の集約化・統合の推進」を基本として、令和3年度には、教育文化資料館並びに旧金山ハウスを解体する予定としております。

また、平成27年度に策定した公共施設等総合管理計画を、現状に即した内容に見直す予定としております。個別施設計画において、施設ごとに費用対効果や必要性を検証しながら、令和時代に合ったコンパクトかつ機能的な公共施設の管理運営について検討して参ります。

教育分野においては、令和4年4月に迫った小学校統合に向け、将来を担う子どもたちにふさわしい教育の在り方を検討しながら、児童全員の学びをさらに充実させるため、適切な学習機会を提供できるよう準備を進めております。

さらに、令和3年度にはスクールバスを1台増車し、明安・有屋地域の子どもたちが安心してスムーズに通学できる仕組みを整えます。また、明安小学校、有屋小学校が、誇らしく長い歴史に幕を閉じることができるよう、両校に「明安・有屋小学校閉校記念式典補助金」を交付し、記念セレモニーに係る経費を一部補助したいと考えております。

廃校後の学校施設の利活用については、今年度、廃校利活用検討委員会において検討がなされた内容について、具体的に進めて参ります。

また、小学校の統合に合わせて、今後の金山らしい教育の在り方について、改めて議論しており、適時適育の理念のもと、健やかな子どもたち、元気な金山人を育てるため、各世代に適した「学びの場」を提供して参ります。

町に住む子どもたちが、みな等しく心豊かに教育を受けられるよう、認定こども園から高校までの連携一貫教育に連動し、「学力」の向上はもちろん、「人間力」と「生きる力」を養うための教育となる事業に取り組んでいく必要があると考えております。

具体的には、課題を抱えた子どもたちへの課題解決のためのスクールソーシャルワーカーの配置継続や特別支援教育の充実、GIGAスクール構想に基づく一人一台タブレットの導入により、これからを生きる子どもたちにとって必要不可欠なICT教育の効果を最大限に発揮するため、授業を補足するICT教育支援員を配置することとしております。

「健康づくり」につきましても、高齢化が進む当町にとって、力を入れて取り組むべき事項と捉えております。町の健康福祉に関する課題といたしましては、「支援を必要とする高齢者の増加」などがございます。町で暮らす皆さんが、生涯にわたり活躍できる環境を整えるとともに、ご自身が元気に生活することこそがご本人の最大の喜びであり、ひいては、今後の高齢化社会において社会保障費を減少させる大きな鍵であると考えております。

そのためには、「介護予防事業」や「生きがいづくり事業」の充実が不可欠であり、令和3年度は、町社会福祉協議会に事務局長職を1名増員することで、その体制を強化して参ります。地域包括支援センターと連携しながら、地域の居場所づくりやストレッチ等軽運動の推進、全地域にわたる有償ボランティアの仕組み構築などを実践して参ります。

これにより、増加傾向にある介護保険特別会計への一般会計繰出金や介護給付費の増加に伴い県内で最も高い水準となっている介護保険料についても、軽減させる効果があるものと考えております。中長期的な視点に立って、高齢者世代も希望を持ちながら輝き続けられる町を目指して、取組みを進めて参りたいと考えております。

また、金山健康ふれあいスポーツクラブの民営化を進め、組織として自立できる体制づくりのために支援したいと考えております。現在の会員は、人口の約5%にとどまっており、健康推進のためにも、会員の増加を目指す必要があります。また、スポーツ少年団や中学校部活動においても、選択種目の減少や指導者不足などにより、若年層の「スポーツ離れ」が進んでいることも、町の大きな課題であると言えます。

課題解決のキーマンとして、「スポーツ振興支援員」の配置を考えております。なお、事務局運営のみならず、地域での健康づくりを目的とした運動の推進を活動の柱とすることから、集落支援員制度を活用し、雇用に係る人件費等の負担を軽減する考えであります。

高齢者だけでなく、全ての世代が運動を習慣化することで、町全体の健康づくりに対する機運が高まり、生涯を通じた生きがい形成に繋がるものと考えております。スポーツの推進は、健康づくりや福祉事業とも密接に関連しており、連携を図ることで、世代間の交流が生まれる等、多くの相乗効果を期待できると考えております。令和3年度におきましては、その土台として、金山健康ふれあいスポーツクラブの目指すべき組織運営の道筋づくりを進めて参ります。

従来より力を入れて取り組んで参りました「子育て支援」について、「子どもも親も幸せな子育てができる町」の実現に向けて、継続した支援を行って参ります。経済支援策につきましては、出産祝金や通園費助成金を継続して実施するほか、家庭育児支援金を拡充し、未就学児童等の子育て支援をより充実させております。また、高校生までの医療費無償化について継続して支援することに加え、高校生については医療機関での窓口支払いが生じないよう、手続きの簡略化を進めたところです。

また、母子保健事業の充実や未就学児童を含めた子どもの成長や発達に応じた相談体制づくりを強化するため、健康福祉課と教学課にまたがって実施してきた子育て支援事業につきまして、健康福祉課内に新たに「子育て支援室（仮）」を組織し、今まで以上に、地域ぐるみで子どもを産み育てやすい環境づくりを進め、きめ細かな対応ができるよう子育て支援の取組みを推進して参ります。

冒頭にも申し上げましたが、新型コロナウイルス感染症がまだ終息が見えない中であって、人の往来を自粛する機運から、当町も少なからず影響を受け、飲食業及び観光業を中心に町の産業にも大きな打撃を与えています。

近頃では街並みを散策される方も少なくなり、少し寂しい思いでおりますが、現下のコロナ禍では、交流人口の減少はやむを得ないものと考えております。一方で、ワーケーションなどをキーワードにローカルでの暮らし方が注目されているという一面もございます。

そのような状況を逆手に取り、令和3年度の新規事業として「関係人口創出事業」を展開して参りたいと考えております。金山の魅力を知ってもらうための講座を、東京や金山、場合によってはオンラインで数回開催し、金山のファンとなってもらえるような「関係人口」の創出を図る取組みを実施して参ります。事業は、地域活性化や関係人口などの分野で一定の支持を得ている雑誌「ソトコト」（株式会社 sotokoto online）と連携することで、ローカルでの暮らし

により興味のある層に効率よく情報を届ける仕組みを構築し、事業を進めて参りたいと考えております。

なお、本事業の実施にあたって、「ガバメントクラウドファンディング」制度を活用した財源確保に取り組む予定としております。ふるさと納税型のクラウドファンディングとして、当町としては初の試みとなります。資金調達の手段であることはもちろん、事業の宣伝効果も高く、町を応援してくれる人を増やす機会になると期待しております。その効果を検証しながら、継続的な取り組みにできるよう実践して参ります。

また、今年度に組織した「高規格道路供用開始に向けた交流人口拡大方策検討委員会」において、引き続き、交流人口の拡大方策を検討することとしております。その協議内容と併せまして、町のこれからの交流人口や関係人口の創出と観光事業の在り方につきまして、検討して参りたいと考えております。

「産業振興」に関連いたしまして、何といたっても町の基幹産業は「農林業」です。「強い農業・担い手づくり」を基本に事業を進めますとともに、農業所得の向上と健康づくりのために㈱でん六と山形大学東北創生研究所との協定を基に取り組んでいる「落花生栽培事業」の推進についても、町の新たな主要産品を目指し支援を行って参ります。

また、新規事業として、田茂沢・蒲沢地区の大規模基盤整備事業に着手いたします。農地の集積・集約化を進め、豊かで競争力のある地域農業の実現を目指して、約10年をかけて進めて参ります。

畜産振興においては、長年にわたり神室放牧場を運営し、高品質な肉用牛の生産に取り組んで参りましたが、放牧頭数の減少から、一定の役割を終えたと捉え、新たな畜産振興として、繁殖農家に対する支援を行いますとともに、神室放牧場については、社会福祉法人との連携によりホースセラピーを中心とした活用方法等により、グリーンバレー神室の新たな魅力を発信できるのではないかと期待をもちているところです。

さらに、林業につきましては、森林環境譲与税を財源にICTの効果的に活用しながら、これまでの間伐事業や病害虫駆除の環境整備など、一体的かつ計画的に森林保全を行い、町の宝である金山杉が未来に引き継がれるよう支援して参ります。また、次世代の森林経営管理を担う意欲と能力のある林業従事者

の育成にも取り組んで参ります。

また、金山住宅の建築数は長く減少傾向にあり、林業関係者が心を込めて育て上げた地元木材を活かす機会が少なくなっていることも現実です。金山大工の減少も大きな課題であり、後継者の育成と併せて、若者の住宅ニーズに合致して町の景観とも調和するような新たな金山住宅の在り方を模索することが、取り巻く課題を解決する糸口であると考えております。

特別会計につきましては、地方公営企業法適用の水道事業会計資本的収支予算を除く特別会計全体の予算合計は16億6千9万円となり、率にいたしまして5.6%の減少となっております。各会計の詳細につきましては、後ほど各課長から説明申し上げます。

特徴的な事項といたしまして、国民健康保険特別会計につきましては、事業勘定の廃止のほか、直診勘定においては、町立金山診療所が無床化となることから前年度対比で大幅減の予算となっております。また、介護保険特別会計につきましては、令和3年度から第8期介護保険事業のスタートに合わせて、サービス利用者の増加による介護給付費の増加などにより、介護保険料を引き上げることとしております。

以上、各会計の主な概要につきましてご説明させていただきましたが、今まで申し上げました事業のほか、詳細の事業につきましては、このあと担当課長から主要施策別事業概要一覧によりご説明いたします。

なお、予算の執行にあたりましては、あらゆる分野を連携させ、十分に効果を発揮することと、財政展望や人口推計など、将来の町の姿を常に意識しながら事業を実施して参りたいと存じます。

行政は、将来の安全で安心な暮らしを保障する役割を第一の前提とし、未来の町民に理解していただける町づくりを行っていかねばなりません。

第5次総合発展経計画の将来像「みんなが主役、みんなの故郷、金山町」の実現に向け、常にオープンでクリーンな、町民の皆さんに信頼される町づくりを行って参ります。

議会の皆様にも、引き続きご指導下さいますようお願いを申し上げ、令和3年度各会計予算案の内示とさせていただきます。ありがとうございました。